舫い浜に生きる

11

笑顔で開村式を楽しむ長洞地区の住民たち。「地域一丸で復興に取り組む」と誓う＝陸前高田市広田町

「せっかく助かった命だ。がんばっぺし」で17日、開村式が行われ、地域一丸で復興に取り組むことを誓った。入居する住民は互いに気心が知れた「お隣さん」同士。生活再建の一歩を踏み出した喜びを分かち合った。

只出漁港に面する長洞地区は、約60世帯200人が暮らす集落。約20世帯90人が被災したが、ほぼ全員が港近くの高台に建てられた仮設住宅に入り、地域のコミュニティーを守った。

震災から間もない3月下旬、住民たちは地域の絆を守ろうと必死だった。地権者4人がいち早く用地を提供し、住民は同地区に仮設住宅を建てるよう市に要望書を提出。

まちづくり関係者で構成する仮設市街地研究会（東京）の支援を受けて住宅の配置などを盛り込んだ建設計画5案も作り、何度も行政に働き掛けた。

仮設住宅整備に奔走した同地区部落会村上誠二副会長(55)は「コミュニティーは復興を軌道に乗せるための土台。ここまで進んだのは『結い』があってこそ」と喜ぶ。

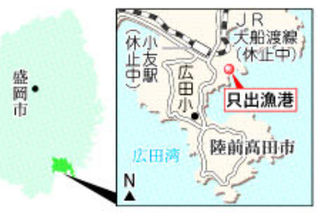
小さい集落だからこそ結束は強い。同地区は震災当日のうちに各世帯の備蓄米などを調べ、約1カ月分に当たる食料を確保。移動は軽トラック2台に絞り、住民から集めたガソリンを使って燃料不足を乗り切った。

「一生住むと決めた地域で助け合うことはごく当たり前のこと」と村上さん。地域には相互扶助の心が根付いている。

今後は地区独自の復興計画を立て、本格的に復興に取り組む構え。同部落会の前川勇一会長(64)は「小さい集落だが大きな街に負けない力がある。海の集団は強い」と住民の力を信じる。

只出漁港　大船渡市と陸前高田市の境に位置し、陸前高田市小友町唯出と同市広田町長洞の両地区で集落を形成する。ワカメなどの養殖を営み、長洞地区の専業漁業者約10人のうち4人が再開を目指している。

「舫（もやい）」は、船と船とをつなぎ合わせることや、寄り合って一緒に仕事をすること、集落内の共同作業や利益の共同分配などを表す。沿岸地方では地域のつながりを示す「結（ゆい）」の意味で使われることも多い。



只出漁港（陸前高田）
手携え「元気村」前進

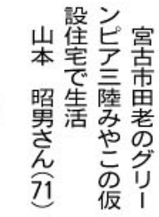
いわて 東日本大震災

～被災地からのメッセージ～

宮古市田老のグリーンピア三陸みやこの仮設住宅で生活
山本　昭男さん(71)

ボランティアで来てくれた盛岡市の中川石油に、震災後買った車の清掃をしてもらった。車を洗う水やスペースがなくて困っていたのでありがたい。14に建てたい。

安全な地に家建てる



津波てんでんこ

題字・山下文男さん

山田町山田
会社員
久保　靖弘さん(58)

自宅は被災しなかったが、震災直後は被災者に申し訳なくて電気もつけられず、お風呂にも入らなかった。勤めていたガソリンスタンドは津波と火災で全壊。残ったタンクローリー車で避難所に無償で灯油を配ったこともある。お客さんには、スタンドをオープンしてほしいという声も多い。何とか元通りにして期待に応えたい。

応えたい給油所再開

久慈市宇部町
主婦
欠畑サチ子さん(68)

家にいる時に大きな揺れに襲われた。すぐに飼っていた犬やネコを連れて、車で高台に避難した。津波は船や建物などをおもちゃのように押し流し、その光景を思い出すと今でも怖くなる。長年、小袖海女をしている。今年は素潜りの実演はできないと思ったが、再開することができた。できることを協力していきたい。

海女経験生かせれば

～被災地へのメッセージ～

盛岡市向中野
会社員
坂　進さん(40)

銀河高原ビールに勤めている。昨年の今ごろ、高田松原など沿岸の道の駅をスタンプラリーしながら旅行したこともあり、映像ではなく自分の目で見なければと被災地に向かった。一企業ができることは限られているかもしれないが、応援していきたい。沿岸でのイベントにもビールを提供した。ビールで元気になってもらいたい。

ビールで沿岸を応援

二戸市福岡
会社員
平野　勝章さん(36)

8月上旬、自分が所属するカシオペア青年会議所が二戸地域の100㌔を歩く旅を開催する。被災地の子どもも参加するので、人間として一回りも二回りも成長するように手助けしていきたい。さまざまな経験を積ませて、地元に帰った時に周りに勇気を与えたり、元気づけることができるようにしていきたい。

経験重ねる持久歩に

震災後初の素潜り実演を終え、笑顔を見せる大向広子会長（左）と中川やえ子さん＝久慈市宇部町

北限の海女 再び浜へ

震災後初の実演
久慈 伝統継承へ決意新た

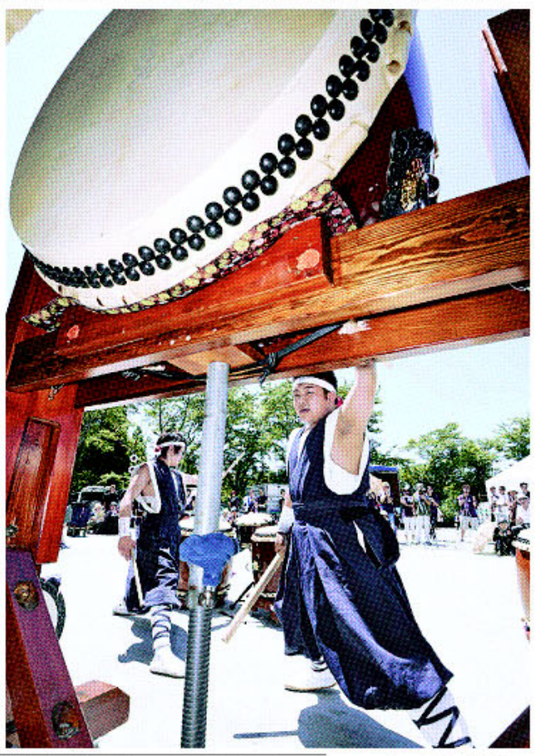
久慈市宇部町の小袖北限の海女の会（大向広子会長）は17日、地元の小袖海岸でウニなどの素潜り実演を震災後初めてスタートした。震災を乗り越え、地域の伝統を守ろうと再開を決意したベテラン海女たちの素潜りに大きな拍手が送られた。

大向会長と中川やえ子さんが県内外からの観光客を前に素潜り漁を実演。伝統のかすりはんてんが流されたため、自前のウエットスーツを着て、水深5㍍ほどの海底に潜った。ウニやメカブ、ツブなどを採った海女たちが海面から顔を出すと拍手や歓声が送られた。

震災後初めての実演で「不安だらけだった」勇気づけられた。涙が出るほどうれしかった」と「北限の海女」の伝統継承へ思いを新たにした。

実演は当面、午前10時半からの1日1回のみ。ウニの試食は状況を見ながら行う。料金は1人500円。9月末まで。申し込みは同会（0194・54・2261）へ。

街再興 願い込め
陸前高田 全国太鼓7団体が集結



ブランクを感じさせないダイナミックで動きのある演奏を披露すると、観客から盛んな拍手が起きた。

雲仙・普賢岳の噴火で大きな被害を受けた長崎県南島原市深江町から参加した「和道・深江太鼓」の代表浜本雅夫さん(34)は「20年前の噴火で仮設校舎で勉強するなど苦しい思いをしたが、今では普通の生活に戻った。東日本大震災の被災地の皆さんも頑張って」と話した。

復興を願うイベントで演奏する、福島県川俣町山木屋地区の山木屋太鼓「山猿」のメンバー＝17日、陸前高田市

福島第1原発事故で、計画的避難区域に指定された福島県川俣町山木屋地区の山木屋太鼓「山猿」など全国七つの太鼓団体が17日、津波で被災した陸前高田市に集まり、復興を願うイベントを開いた。

「全国太鼓フェスう」と呼び掛け、実現した。

男女5人のメンバー全員が地区外に避難し、練習もままならない中という「山猿」が、負けない姿を見せよいという話した。

復興祈願 黒森「舞込み」
宮古・小規模神社例大祭

黒森神社例大祭に合わせて行われた黒森神楽の巡業を締めくくる舞込みの神事

宮古市山口の黒森神社例大祭は17日、同社境内で行われた。今年は東日本大震災の影響を考慮し、のぼり旗やポスターを自粛するなど規模を縮小した。震災復興祈願祭と黒森神楽の巡業を締めくくる「舞込み」の神事を兼ねて開催。参列者も例年の半分ほどの約50人にとどまったが、勇壮な山口太鼓が境内を盛り上げた。神楽衆も2演目を奉納した。

総代長で同神楽保存会長の三上敏さん(78)は「千年に一度の災害の中で通常の祭典は無理と判断した。地域の方々にも了承してもらい三つの儀式を一緒に行った」と語る。

同神社を本拠とする国指定重要無形民俗文化財の黒森神楽は、今年の南回り巡業を3月11日の震災で中断。本来なら同19日に区切りの舞込みを予定していた。

持ち主不明のメモリーカード
釜石の家族に戻る
遠野・本紙報道きっかけ

SDカードを見つけた土屋雄也さん（左）と菊池一男さん(右)、弘美さん（中央）、駿輔君

遠野市の災害ボランティア滞在拠点・遠野災害ボランティア支援センター遠野まごころ寮のスタッフが捜していたSDカードの持ち主が見つかった。釜石市の家族が17日、同寮を訪れ、思い出の写真データを受け取った。

持ち主は釜石市嬉石町の会社員菊池一男さん(45)。カードには東京都の病院で妻弘美さん(44)が長男の駿輔君(9)を出産した直後の姿を一男さんが撮影したデータが入っていた。自宅が津波で全壊し、流失した家族の写真やメモリーカードを捜していたという。

15日付の岩手日報に掲載された記事を友人から教えられ、まごころ寮に連絡を取った。

現在は同市中妻町の仮設住宅で暮らす一家。弘美さんは「駿輔が生まれた時の感動がよみがえった」と喜び、一男さんは「物は買うことができても、思い出は買い戻すことができない。写真を見つけてもらって本当にありがたい」と感謝する。

カードを発見した同寮管理人の土屋雄也さん(27)は「大事な写真を返すことができてよかった。肩の荷が下りた」と笑みを浮かべる。

善意の楽器 感謝胸に
東京の社福法人 野田中に寄贈

東京都の社会福祉法人さぽうと21（吹浦忠正理事長）は17日、野田村の野田中（三船俊光校長、生徒133人）を訪れ、ホルンやトランペットの楽器やスタンド、マウスピースなど計67個を寄贈した。

同校は高台にあり津波の被災は免れたが、楽器の老朽化が進んでいた。経済的に購入が困難なことから、被災地の音楽支援をする同法人がチャリティーコンサートの益金などから楽器を寄贈した。

吹浦理事長が吹奏楽部の田中麻優部長（3年）に目録を手渡した。部員20人が感謝を込めて「銀河鉄道」を演奏、吹浦理事長とトランペット奏者の小林好夫さん(44)、ファゴット奏者の垣内紀子さん(27)も演奏を披露した。

田中さんは「楽器をもらった意味を考え、感謝の気持ちを忘れず頑張りたい」と喜び、吹浦理事長は「子どもたちも一生懸命だ。今後も必要な支援をしたい」と誓う。

生徒たちの心のこもった演奏に聞き入る吹浦忠正理事長（右から2人目）

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。